11

・った霊

、そこから学ほ霊性運動を取り

T

くまでも、

み言

その

ぼうと り入れ

う聖書

人間ではなく、

目に映

る

血

肉

べての

聖なる者たち

のため

す

絶えず目

まして

リンスやリラプレ ちアシュラムも、

最 カリアと

近

私た (ラビ



写しながら目眩がしそうに

されている。

なんだか書き

すべ

の



2022. 3月第640

発行所 アシュラムセンター 523-0894 近江八幡市中村町 567-2 Tel 0748-33-4030 Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ www.ashramcenter.ip

アシュラム誌編集委員会

01050-6-53772 アシュラムセンター

印 明文舎印刷商事(株) 刷

とされるエフェ

は、

0

口 5

自身

いたも

0) ソ書

ではな

ば 言

この

パ

ウ

が書

ゲン(日々

聖

0) 1

月 ズ

エフェ

ソ 書

引き続

口

を

13

T

いる。

性

を保

ょ

< 18

祈

ŋ

と、

手

ゆ そ

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたもの であります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

0)

神秘的キリスト教体験

を

キリスト教理 者の中には、 なってしまう

一解よりも、

۔ ح

ただ現実的

な

が、キリスト

かなことだ。ただ、それ重んじる人がいることは

。ただ、それががいることは確 いきすぎると、

魔

策

略に対

ム著 神秘をめぐって」(ボルンカし、啓示されたキリストの する広範 領 宙 また復活などよりも、「字 |域、全ての諸勢力を包括||及びそれに属する全ての 新約聖書 な範 囲を舞台 」より)記 لح

な認や十字架による贖る中心的テーマである。 内容も、 パウロ マである、 のいわ 11

切なものであると、 アシュラム運動 いるからだ。 9 共同訳聖書では、「悪と さて、今回の れることこそが、 理 性を超える神秘 聖書箇所は、 にとって大 私たち 信じて

れている。「最後に言う。戦え」と小見出しがつけら は依り頼る よって み、 強 くなりなさ その偉大な

くっている悪、

彼らのいうところの、世界が、これら闇の支配者とは、論者の喜びそうな言葉だ それ にも、 $\widehat{\overset{6}{\cdot}}$ ではない。 を操る秘密結社などのこと えない敵 配配 は誰 オカルト 天に なのであ 0) そうではなく、 いる悪 いう目には見 闇 好きの 0) る。 0 0

どん

it

か

勿

0

瞑 想

えず目を覚まして根気 ての よう の聖なる者たちのりな時にも、霊に のため に べよく祈 ょ 0 に、 7 祈 h ŋ 続 エフェソ6: け なさ

祈

そして 履物、 神い神立いのつ。 帯、 著者は命じるの のを身につけ、 」 (エフェソ6: 正義の胸当て、福音の武具、すなわち真理の 信仰の盾、 霊 義の胸当て、 の剣。 だ。 これらのも 悪と戦えと 救いの兜、 10 しかも 福音の -11 よってに

つことができるように、 付ななさ L うの るの ただ一つ。 側にではなく、 うことこそが たちは、 あるのではない よって祈り、願い求め、どのような時にも、 に一つ。 听るいのだ。 その戦いの方法は、 その内なる敵と戦 空いたい 神の武器を身に だ。私たち か。 内 0 8 側にこそ 敵 b 献は、 n 7 外い

全

て、

ij

|でしまう危険がある。

なしの世界に嵌まり込ん

それ

オカルトチックな

0)

武

一具を身に着

あ

まりにも

心の中にも 願 その悪と戦 求 į, 陰謀 いか め 恵 18 この祈りを聞き届けてくだけれども祈りには、そしてたちには、なんの力もない、者の真実の言葉である。私者。それは祈りの力を知る。 歩き、祈るようだけではない。こまでいるのだ。祈りと たちの戦う唯一の古は命じる。祈りころ いが、神 な時も、 「み言葉の静聴」」ラプレカリア)」も、 気休めなどではない。れ。それは決して、弱 リンス)」も「祈りの竪琴 なのだ。 「 るように生きる。これこそ などと嘆息を漏らす事 である。「祈るし さる方には、 のだ。「歩く瞑想(ラビく、祈りの生活そのもの、神の武具を纏い生きて 祈るように食べ、 祈りとは、 根気よく祈り続 歩く瞑想 言葉を注ぐこと 聴」もつ 偉大な力があ りこそが かないの 祈るように 方法な ただ手 弱者 そして

身につけ、だれている。これでは片付っ して、 神の武具に他ならない 友よ、 のように広く深 その宇宙 私たちの心の内 そこを か ない 神秘に溢 理性だ を して そ

が由ら度の

てなの形でなる。

を守ららを守ら

れ倒昨年

れ、 不自 は れなが 三

証 神 様 み 業

た。 毎はそを参札開年、し頂加幌催 て、 させ 61 アシュラムに長年 さ 口 夫、洋の救い」を ナ以幡 て参りました。 n て頂き、 祈りの課 いしてきま 7 前まで まし 恵み 題 13 外れてしまった折には、山かれてしまったがには、山かりの場をあれる

ŋ

てしまっ

た事 らさまに

Ė

あ

か出

発せ

前

タ

ĺ

ての ク

その夫がっました。

いてくれ たが、 る位を る 折目 を否

の関定 べって聞

の前で祈る私の祈り関心も示さず、時にとませんでした

て。後列右から幡江姉。猪瀬姉、そして池

n L

た事

あ

た事は、感謝の外な日常生活に戻れなな体になりました

また

食前に、退院の

ましょう」と手を 良前に、「感謝し 退院の日の夜の

郭師、ジュラ柳原師、恵師。 せ、祈り終わると、
素直に手を合わ
ましょう」と手を
ましょう」と手を す アー してくれたのでアーメン」と唱和 日以 私の は二

2019年国際正義・平和アシュラムin札幌に

谷兄!石垣師。前例右にキャロルサック師、

の頂長リ 祈い崎ス 7 耳を傾 の 祈 10 耳 を わ時 傾け いける者が は 又 あ

喜び、感謝していれている事に、 えていく。」との友人のの限界をヤスヤスと超 くとも、 名を賛美いたします。 彼 一神様は病いを用いて人 葉に「アーメン」み 思い乍らも、別の心に届いているの言葉がど 感謝しています。 耳を 傾 てい 似けてく 少るれ

す。 与えて下さると信 O< 13 い先も必ず良いださった神経 夫の救い」 い実りたがで導い ルで導いて りを じま

深 フけ 札幌、年頭アシュニュ基札幌北部教会 て 下 そし (V 一げます。 ミリ 感 激制とおり ・
さっ 頭アシュラム友 ĺ 0) た多 祈りを 祈 様 < くりの続 申

(ルカ福音 のなたがた がなたがた がなれがた 日 才

IJ

0

里

シ

ユ

ラ

4

証

(3)

聖会のな 時 か る金ア山 ワ シ ク シュラム 良雄師 ヮ

て、身動さら先生は対あたりになった。 天 坂 ・ か 城山荘が たりにお座 たでした。 たりにお座 たりにお座 たでしょうにお座に 身動きした 変労困憊さ 心されい なりの終欠榎いに真わ席本 てでなんっし先番 いすっ中たま生多

昨年の、日光オリーブの里アシュラム、

食後のひと休み時。

んです。るっちゃん達と合流する予定だったりジルからの保郎先生私はロサンゼルスでブ 様から出された。 ラジルからの知れはロサンゼが大に召され、ななはロサンゼがあるせを関 めでした。 本裕、るつ子夫妻) 知らせを聞 道集会をサン 緒に賛美の伝 た。その 若くして たと た使 残 61 て号 フラ ζ で e V 時、 Ž L

きっと天上がかったけ、 達 を見守 でした。 て下さっ っの保 旅は叶や b, 叶わな生との伝 たと思 から私 n

(・上野の森キリスト教会 ・日光オリーブの里創設者

ば

ŋ

0

溢れいなくい

れてとんだ゜

下 い لح

さ

9

神

様

う L ŋ

願 7

11 \$

を

z

出れ

aかけられな おけらな

لح

様 そ

が

神ご

謝



ズーム参加の方も共に記念撮影。島田姉は、前列右から 2人目。琵琶湖コンファレンスセンターにて。

善きも

は、 仕 入たば 7 先た。 こと でよ 田ラ \mathcal{O} 兄ム 輩 5 L で 満 お期に皆 3 でや目 た 証のと フ き \mathcal{O} 様 は池っ アた自 T 0) 3 ょ 励谷 7 分 シ IJ ま見 うをユ ア 1]] で知ラ れ和ユドのしるム

りお

り様

での

豊尊

か

な

時

息い

⊞ ت

奉

ま 祈皆

来

てた。

ま守のご まけいをてする 上ざ本す て主求沈が 教 いにめ黙 `との をにい当 聖書キリスト 大阪聖書教室の お主まに き ょ 神の中 たる私 祈のしあ 様なが り平た。 い歩に みにい走 n い安 が とみ相こ向もっ 教 皆 とう 思を応とかのて ح た 会 友 しお様 い続しばっでい

第2回「あや講座」に参加して 橋本 るつ子

2022年 1月22日(土)オンラインにて三浦綾子読書会代表、森下辰衛先生と榎本恵牧師の対談を中心としたあや講座 が持たれました。当日はZoomにて数十名の方が参加して下さり、心温まる良き時を過ごさせていただきました。講 座の中心は「ちいろば先生、最後の日々 三浦綾子が書いた弔辞から」で、父榎本保郎のブラジル、北米伝道旅行途上 の召天、という出来事を通し三浦先生がどのように感じ、またそこに神様のどのような御心があったのかを再考察す ることが出来ました。このために森下先生、恵牧師は三浦先生の弔辞、また当時のアシュラム誌を読み返し準備を重 ねてくださいました。また、当時伝道旅行に付き添い、最期まで共にいた母和子も45年前の記憶をたどり、臨場感あ ふれる証言をしてくれました。長く肝臓を患っていた父にとって、この伝道旅行はひょっとしたら命取りになるかも しれない、と危惧し止めたいと思ってくださっていたのは三浦先生ばかりではなかったと思います。弔辞の中でも「何 故踏みとどまって下さらなかったのでしょう。生きてさえ、おられたら、たとえ病床にあられても、多くの人に神の 愛を知らせ、大きな感化を及ぼされたでしょうに。」とありました。本当に私も何度そのように思ったことでしょう。 しかし父が私の主人にあてた手紙の中に、「死の宣告を受けています。私は体が不調な時、ふと不安になることがあ ります。家内や子供のことを思うと心が揺れます。でも一人一人が神さまの御手の内にあることを思う時、やはり限 られた時間を、与えられた福音の証しのために捧げねば、と思いを新たにさせられるのです。どうか私のために祈っ て下さい。多少人の誤解を受けても語るべきことは語っておきたい、聴きたいという人がいたら、どこへでも出かけ て行って語っておきたいというのが現在の私の心境です。」という一文がありました。病気の事、家族の事、始めて まだ間もないアシュラム運動の事…心配で心乱されることがあったと思います。しかし、み言葉による神さまからの うながしには従わざるを得ないし、その後のことは神さまにすべてお委ねしようと強く思ったのでしょう。

そして、52歳で天に召されました。しかしその死は悲しいだけでは終わ らず神さまによって多くの実が与えられています。朝の6時半からの早天 祈祷会に、全国のアシュラムの友、十数名がZoomを通して毎朝参加して 下さることもその一つの証しではないでしょうか。三浦先生も弔辞の中で こう書いてくださっています。

「しかし、悲しみの中にも今、私は、大きな感動と励ましを与えられて います。先生はキリストの為、いつも生命を賭しておられました。だから こそ生命をかけて宣教の旅に出られたのでしょう。先生は最後の一滴まで 神様にささげられました。最後の最後までキリストのために生き切って証 しをなさいました。(中略)私たちも涙を拭って先生の後に従います。アシュ ラムのために祈り続けます。(後略)」私たちも神さまからの促しを聞き漏 らさず、一人一人がちいろばとして喜びと感謝をもって生きていきたいと 強く思いました。 (♪オルガニスト、るっちゃんるんるん福音食堂 etc...)



昨年3月3日、夫の橋本裕兄召天記念日に。 今年は40周年。夫婦共演の賛美と証は、こ れからも続き、継がれていくことでしょう♪(裕 兄作曲・編曲の賛美が今も生かされてます)

ふみて行 か

アシュラム誌 1972年 12月1日 榎本 保郎

すので、 りますが 遽入院静養と云うことを繰 ろうと思えば何でも出来ま 医者や信徒の方々にやかま 態で今日に至りました。 しく云われて入院致しまし 返して参りました。 れると悪化すると云う状 かかり、その後慢性化 11月17日もその通り 一つ自覚症状がなく、 そして今年の9月22日 は 加療を続けたのであ 10 つい無理をして急 余りはかば 前 血 清 昨年 肝

果は余りひどい状態では 昨年入院した同じ日、 月13日やっと検査を受け ちに検査を受けられず、 に出血傾向などがあり、 を検べる)を受けるために 臓の一部を摘出しその細胞 察する) 腹腔検査 に入院しました。 10月17日岡山大学附属病院 して参りました。 し腹腔鏡で肝臓の状態を観 いかず、 11月17日、不思議にも 併せて肝生検 (お腹を少し切開 因究明 検査の結 少し血液 0 ため、 退院 11 直

月 17 日、 る)と云う御言葉が強く ズンゲン、 う」(詩編121:8、ロー と入るとを守られるであろ に至るまで、 ます。只、

「主は今からとこしえ

あなたの出る

保郎師お気に入りの椅子。 テレビドラマに登場するかも!? (ダブルハウス恵師宅にて)

> 味わされております。 中に主を信じる者の幸 う確信を与えられ、

る北海道から三浦綾子先生 時もありました。) 日寄せされる十数通 生活でありましたが、 夫妻がお見舞いに来て下 ちょうど1ヶ月の岡山で (多い時には二十数通の はるば の便り 毎

(早天祈祷会感謝

神様の働きは、

何ものにも邪魔されず、進んで行きますね

と祈って御言葉を聞いた けばよろしいのでしょう よ、これからどう生きて行 つことができましたが、 ンを執っている状態であり も神のみこころにかなうの のように生きて行くのが最 のような状態でこれからど するとの事であります。 さそうですが、 御旨を示して下さい とができましたが、11時間余り静まる時を持 御旨を問いつつ、 即ち退院の日 岡山でも私は毎 尚静養を要 主 が起り、 こでもお用い下さったと感 と云う人が出て来、主はこ とか「話を聞いてほしい さったと云うことに驚い えました。 い下さると云う事を知らさ あっても、 たとえどんな状態の中に 謝したことでありました。 たちまち「ちいろばブーム をあげたところ、 看護婦さんに「ちいろば 主にある者の幸いを覚 「教会に行きたい

主はそれをお用

りお礼を申し上げ報告とい お見舞い下さった方に心よ 便り下さった方、 いと云うのが現在の心境で をひとすじにふみて行き度 かれようとも、 ようとも、どんな状態に置 に」どんなことが起きてこ まわん、備えたもう主の道 「わが行く道、 ふみて行かんひとすじ なるべきがわつゆ知ら 祈って下さった方、 主はみこころなした ただ主の道 わざわざ V 0 V お

日々の聖句によ

が共に居まし給うのだと云時にも私を守って下さる主 迫ってくれました。どんな

不安の

13

を



7月、保郎師召天 45周年を迎えます。



リトリートアシュラム中のクリスマス愛餐会。みんなの カフェちいろば、大山謙一シェフ、悠子母の手により、 彩り豊かなカナッペ達が並べられ、参加者皆、ワクワク!



食後は♪京都シャロームチャーチの皆様による ビオラ、チェロ、ピアノのコンサート♪美しい響 きと、みことばが、心の奥まで満ち溢れました。



病院内に

ってくださった皆様に 感謝いたします!

あ

が

立

ち

上

が

6

n

た。

主幹牧師の2021年度の振り返りと2022年ビジョン(2)

もちろん海外でのアシュラムも、ブラジル、台湾への渡航ができなくなり、残念ながら行くことが叶わなかった。センター主催アシュラムも、四国1日、福岡1日、日光オリーブの里の3箇所はかろうじて開催できたものの、他のアシュラムの多くは、中止または、延期を余儀なくされた。

また、各地聖書教室も、10月から再開はされたものの、今もコロナの変異株しだいでは、Zoomによるものに変えなければならない状況である。そう言う意味では、2021年にアシュラムセンターの立てた計画の多くは、残念ながら実現しないまま終わっている。しかもそれは2年連続であった。

昨年の年頭アシュラムの中で発表した「2021年のビジョン」には次のように書かれている。「2020年は、コロナに始まりコロナに終わる一年であった。そしてこれは、今年2021年へも続いていくことだろう。政治も、経済も、信仰も非常事態の名の下に、混乱に次ぐ混乱であった。一人アシュラムセンターだけはそれと関係なしということは決してない。しかし、私は思う。この年

もまた、恵みに次ぐ恵みであったと。主は必ず、 どんな災難の中にあっても、私たちと共に歩ん でくださる。「イエス・キリストは、きのうも今 日も、また永遠に変わることのない方です。」(ヘ ブライ13:8)」と。

この言葉は、そっくりそのまま、今年度の「主 幹牧師のビジョン」にも重なり合う。まさに、こ の年もまた、コロナに始まりコロナに終わる一年 であったと言えよう。しかし同時に、それは恵み に次ぐ恵みの年でもあった。何一つ自分たちの 思い通りにはならなかったけれども、それにも増 して大きな恵みが与えられたのである。 (続く)



2月、久々に顔と顔を合わせての阪神ミニアシュラム! コロナと会場の都合で、ズーム続き。この度、皆様の 祈り聞かれ神戸聖愛教会にて、喜びの開催!今までの 主恩教会に感謝こめて。



榎本栄次師、璋子ご夫妻、かな姉がご来訪。 シメオン黙想の家、ラビリンス完成を喜 んで下さった。



ラビリンスを歩く和子母。てる子師の木(写真右、まだ小さく細いが根付いてるカエデ?)のそばを一歩一歩。



クリスマス、静岡より池谷照雄、寿子ご夫妻が、 道具材料一式車に積んで蕎麦料理振る舞って 下さいました!治朗兄に蕎麦打ち伝授叶わな かったので、と。筋がいい!と恵師褒められ。

のれてつ止とる良何いと仰多委シ 行常主ラ祝のい、めはこき事。はしい員ユ今わ任幹ム福アたみる尽とにがけなてこのラ年れ運牧と 。はしい負ュ今わ任幹ムせ4 と皆様がた。 をシだ言にきが導あれいい 祈ユき葉しな大いっ どなれだ様が 切っている。 でいてくださる方いてくださる方にい。 今年のとさたい。 今年のとうない。 今年のにない。 今年のにない。 一つのに、 どばろは始こ と言い 、まいる コ n ろがか に う っ た ち い にしても、 心配なこ 、全てを もかろろお各 上のっか をかかるにいるのがあるになる。 て祈 れいり 恵主ぞっつ

°i と参 加う第 ず ٤ 人 こ 47 染対 こができれなけた。これなり折りたったい。これなさい。これなさい。これならかれりできればした。これなりができれば、 営師の遺 ま ッと が、対で、策 が新した も合わした もたとの からわした うれ のビ もは食 として、ファ たと思う。 たと思う。 たと思う。 で たと思う。 で たと思う。 で たと思う。 で たと思う。 はい告 ョの 39そか い事 つも お す も黙フ れ 口 も (の食) 励れ主 0 味がない。 なが、 なが、 なが、 か を ばの た 、m れか言 迷 シ替 リち味ち L なしがく買りの外っ くい、ユ美ーろわ合 にな感 一で



中止、又はオンラインに変更もあり。 ホームページ、電話等でご確認下さい。 直前の変更の場合あり!

| | 3月の聖書教室など 【主な問い合わせ先】 0748 - 33 - 4030 アシュラムセンター |
|--------|---|
| 1(火) | Zoom聖書教室(AM10:30、PM7:30) |
| 4 金 | 阪神ミニアシュラム(神戸聖愛教会 PM1:00) |
| 12生 | 聖書と学ぶ会 (Zoom PM8:00) |
| 14(月) | 福岡聖書教室(博多クリオコートホテル PM1:30) |
| 15似 | 大阪聖書教室(大阪クリスチャンセンター AM10:30) |
| 16例 | カフェちいろば聖書入門講座(京都・伏見区深草 PM1:30) |
| 18金 | センター聖書教室(アシュラムセンター AM11:00) |
| 20(日) | ちいろば牧師記念チャペルタ礼拝(PM5:00) |
| 21頃 | 箴言に学ぶ会(Zoom AM10:30、PM7:30) |
| 23例 | 美しい足の会(Zoom AM10:30、PM7:30) |
| 26生 | 加古川祈りの家(小林清子姉宅 PM1:00) |
| 28月) | 静岡聖書教室(旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30) |
| 29(火) | 東京聖書教室(御茶ノ水クリスチャンセンター 4 F AM10:30) |
| 4/1億 | 阪神ミニアシュラム(神戸聖愛教会 PM1:00) |
| 4/5(火) | Zoom聖書教室(AM10:30)(午後は未定) |

3月のアシュラムなど

| | 京都洛南教会礼拝・修養会 奉仕者 榎本 恵師 | 0748-33-4030 アシュラムセンター |
|--|--|---------------------------|
| | 2022年 修道場アシュラム② (アンナ祈りの家、シメオン黙想の家) 奉仕者 榎本 恵師 | 0748-33-4030 アシュラムセンター |

4月のアシュラム予定

| 21(*) ~ 23(±) | 2022年 修道場アシュラム③ (アンナ祈りの家、シメオン黙想の家) 0748-33 奉仕者 榎本 恵師 | -4030 ムセンター |
|----------------------------------|--|----------------|
| 29億 | 阪神一日アシュラム (神戸聖愛教会) 0748-33 奉仕者 榎本 恵師 アシュラ | -4030 ムセンター |

5月以降のアシュラム予定

| 5月3%~5铢 | 第30回 盛岡・秋田アシュラム |
|---------------|-----------------|
| 5月12(水)~14(土) | 第7回北陸金沢アシュラム |
| 5月19(水)~21(土) | 2022年 修道場アシュラム④ |



後宮俊夫師召天3周年記念、親族20数名集い礼拝。後宮敬彌師司式。世光教会宇治霊園にて。俊夫師の壮大な夢を懐かしむ。

みことば

ノースカロライナ大学院生 Zoom聖書と学ぶ会 榎本 空



敬愛する ジョン・レノン? 筆者、中学生の頃・画

主のことばによって、天は造られた。 天の万象もすべて、御口の息吹によって。 詩篇33・6

リンネというスウェーデンの植物学者がいる。分類学の父と言われ、現在使われている植物の分類法の基礎を作った。キリスト者だった彼の企ては、神が創造したこの被造物を分類し、それに余すことなく名前をつけていくことだった。花も、草も、木も、動物も、何ひとつ逃すことなく。神が創造し、リンネが分類したと言った人がいるほどだ。しかしそんな彼は、最後まで神に名をつけるのは拒んだという。そんなことを知ったのは谷川俊太郎の「少年と世界」という詩だった。一部を紹介しよう。

少年はリンネを無視して 名もない野の花々の種子を 言葉の土壌に撒き続ける 生の賑やかな混沌のうちに 終末の静けさがひそんでいる いつか老いて神を名付けるのを拒み 彼は落ち葉の寝床にやすらぐだろう

私もいつか年老いて、この世界の名を隅々まで知り尽くしたとしても、神を名付けるのは拒みたいと思う。この少年のように神の創造の不思議の前で立ち止まり、世界の混沌の中に終末の静けさを聞き取りたいと思う。私たちはいつも神の後ろ姿を見ていることを忘れてはいけない。しかし、それゆえにこそ、私たちは神の不思議に驚き、畏れを抱く。(もう1年、よろしくお願いいたします!)